

報告

5つの「みえる化」の主な進捗状況について

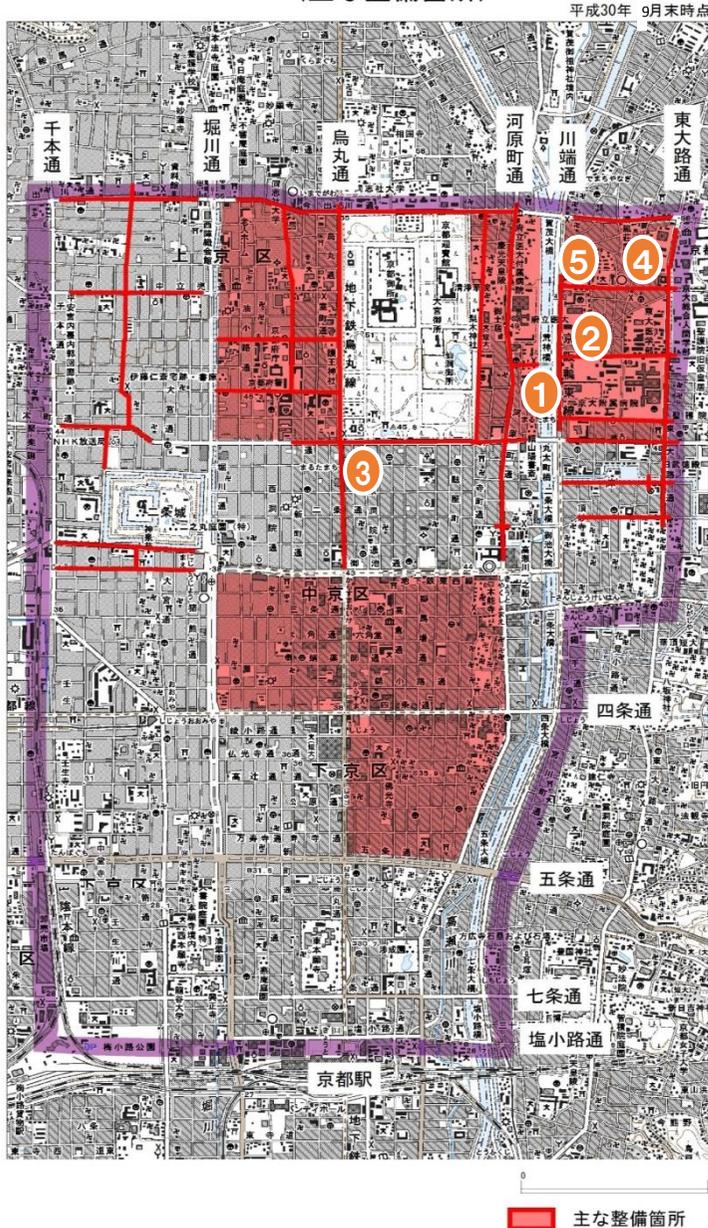
平成30年 10月25日（木）
14：00～



(1) 自転車走行環境の「みえる化」について

■ 自転車走行環境整備の状況

京都市自転車走行環境整備箇所図
(主な整備箇所)



○ 整備延長推移

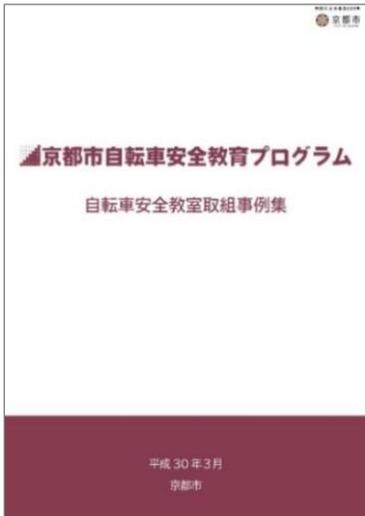
H27年度	H28年度	H29年度	H30年9月	目標値(H32年度)
30km	40.1km	63.4km	73.5km	180km



(2) -1 ルール・マナーの「みえる化」について

○「京都市自転車安全教育プログラム」の策定(平成30年3月策定)

→現在、実施している自転車安全教室等を体系別、世代別に整理。



	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人	高齢者
	●出生 ●保育園 入園 ●幼稚園 入園	●小学校 入学	●中学校 入学	●高校 入学	●大学 入学 ●運転免許取得 ●転入	●運転免許取得・更新 ●転入、就職、結婚 ●子育て	●運転免許更新 ●運転免許返納 ●孫育て
座学		<p>学校現場で実施</p> <p>安全教育副読本「安全ノート」等を活用した自転車交通安全教育（市教育委員会） 1-⑧</p> <p>「見て分かる！」自転車安全教室 1-② </p> <p>自転車安全教室（事故のリスク・社会的責任編） 1-③</p> <p>スクエアード・ストレイト方式による自転車安全教室 1-④ </p>			<p>自動車教習所を活用した自転車安全利用講習</p> <p>①教習生向け（右の写真） ②一般市民向け 1-⑤ </p> <p>大学生に対する交通安全教育（府警） 2-②</p> <p>パパママ自転車教室 1-⑥</p> <p>自転車安全利用推進企業による取組 1-⑦</p> <p>自転車用ヘルメットとチャイルドシート使用講習会（京あんしんこども館） 1-⑩</p>		
		<p>小学生を対象とした自転車交通安全教室（市教育委員会・府警） 1-⑨ </p> <p>補助輪外し教室 1-① </p>			<p>自転車安全利用推進員委嘱講習（京都府） 2-①</p> <p>大学生に対する交通安全教育（府警、再掲） 2-②</p> <p>自転車用ヘルメットとチャイルドシート使用講習会（京あんしんこども館、再掲） 1-⑩</p>		
実技					<p>シミュレーター等を活用した講習（府警） 2-③</p> <p>①矢羽根を活用した公道における自転車教室 ②自転車を楽しみながら学べる教室 ③サイクリングイベントの企画、支援</p>		
							<p>自転車ルール等啓発冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」（子ども向け） 3-① </p> <p>自転車ルール等啓発冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」（一般向け） 3-① </p> <p>自転車マナーアップフェスタin京都 3-② </p> <p>関係団体（市行財政局サービス事業推進室、各区役所、府警、地域団体等）と連携した啓発、各種イベントへのブース出展、市バス車体を活用した広報等 3-③(3-①, 3-2, 再掲を除くすべての啓発)</p> <p>自転車交通安全 CM コンテスト（KBS京都、府警）</p> <p>自転車安全利用推進企業による取組（再掲） 1-⑦</p> <p>マスメディアを活用した啓発等（若者向け雑誌への広告掲載等）</p> <p>新たな走行環境の整備を行う地域への啓発</p> <p>レンタサイクル利用者（観光客、外国人）へのルール・マナーの周知徹底</p> <p>外国人向けパンフレット Kyoto Safety Navi（府警）</p>

(2) -1 ルール・マナーの「みえる化」について

受講対象	教室名	H27年度	H28年度	H29年度
子育て中の保護者向け	①パパママ自転車教室	277人 (12回)	523人 (26回)	172人 (9回)
幼児向け	②キックバイクを用いた 子ども自転車教室	—	28人 (1回)	179人 (7回)
中学生・高校生向け	③スケアード・ストレイト方式 による自転車安全教室	4,350人 (11回)	4,960人 (13回)	3,540人 (10回)
	④「見て分かる！」自転車安全教室	—	306人 2回	2,680人 9回
	⑤事故のリスク・社会的責任編	—	—	1,170人 6回
自動車学校教習生向け	⑥自動車教習所を活用した 自転車安全利用講習	25,763人	21,834人	21,492人
一般市民向け		3,534人	3,197人	2,194人



①パパママ自転車教室
(子育て中の保護者対象)



②キックバイクを用いた子ども
自転車教室 (幼児対象)



④「見て分かる！」自転車安全教室
(中学生・高校生対象)



⑥自動車教習所を活用した
自転車安全利用講習
(教習生・一般市民対象)

(2) -2 ルール・マナーの「みえる化」について

- 平成30年4月から自転車保険の加入が義務化。
(事業者及びレンタサイクル事業者は平成29年10月から)
- 全国初となる「きょうと自転車保険専用コールセンター」の設置。



自転車保険の加入等に係る事業連携に関する協定締結式典 (平成29年4月5日)



自転車利用者が増えるいよ、自転車事故は他人事ではありません。
京都府では、自転車事故の増加、粗次ぐ高額賠償事例などにより、自転車保険の加入が義務化となります。
万が一、事故を起こした時のため自転車保険に加入しましょう。

京都市は、平成30年4月1日より
自転車保険義務化へ。

自転車保険について詳しくは [京都市 自転車保険 加入義務化](#) [検索](#) または0570-001-382 ※1 1円電話や一部携帯電話でご利用の場合、つながりがない事がありますので、その時は、018-863-7765(※2)におかけください。 ※2 通話料金ががかかります。



(3) 自転車駐輪環境の「みえる化」について

○きめ細かな放置自転車対策

→土日祝日・夜間の撤去を強化

→放置状況の変化への対応

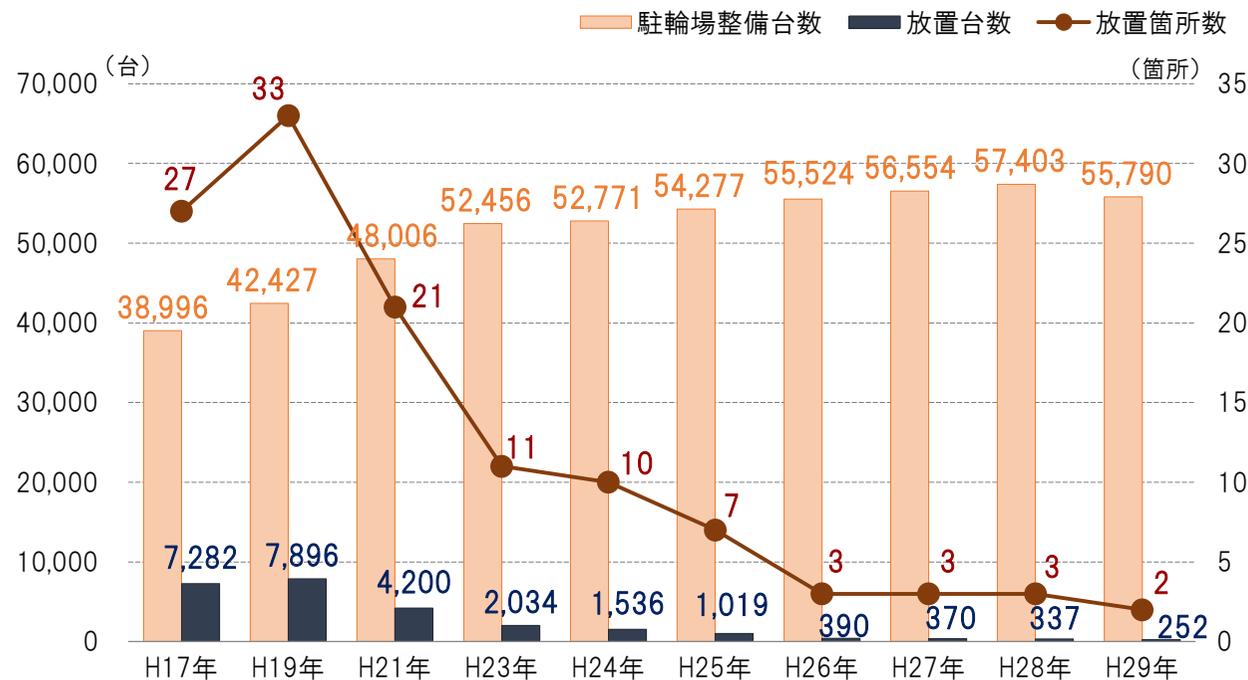
「大量・集中・長時間」



「小規模・分散・短時間」

○駐輪場の整備促進（量から質へ）

- ・ 集客施設等の付置義務による整備
- ・ 歩道スペース等の有効活用（まちかど駐輪場等）
- ・ 民間活力による整備誘導（助成制度）



駐輪場整備・放置台数推移



京都市役所前地下駐輪場



御池通まちかど駐輪場



平成25年度



平成29年度

放置状況の変化（三条大橋西詰）

(4) 自転車観光の「みえる化」について

■京都市レンタサイクル事業者認定制度の創設

- 利用者が安心・安全にレンタサイクルを利用できる環境を創出するとともに、優良な事業者の取組を支援することを目的に、平成29年9月に制度を創設。
- 認定事業者数は、平成30年10月12日現在で、25事業者2,791台を認定済み。
主たるレンタサイクル事業者（46事業者，3,914台）の71%（台数ベース）
- 認定事業者には
 - ・ 認定証，認定ステッカー（自転車貼付用）を付与
 - ・ 本市ホームページや公式アプリ等で広くPR

【認定の主な要件】

- ・ 自転車保険への加入
- ・ 自転車の整備
- ・ 利用者への交通ルールの周知啓発
- ・ 英語対応等



レンタサイクル事業者認定式（平成29年10月30日）



認定証



認定ステッカー



民間事業者により設置されたシェアサイクルポート

(5) 自転車関連施策の「みえる化」について

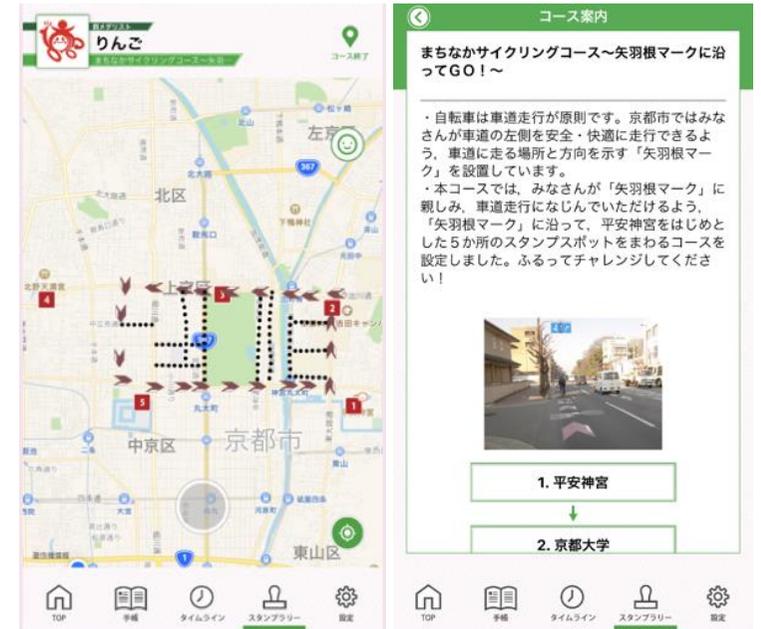
■京都サイクルパス制度

- 自転車安全教室の受講者をはじめ自転車の安全利用に意識を持ったみなさんに特典を設け、受講意欲・安全への意識を高めていただく制度として、平成30年6月に創設。
- 「健康長寿のまち・京都 いきいきポイント事業」と連携し、「いきいきポイント手帳」やスマホ用「いきいきアプリ」の活用により、自転車の安全利用と自転車利用による健康づくりを融合した取組を推進。



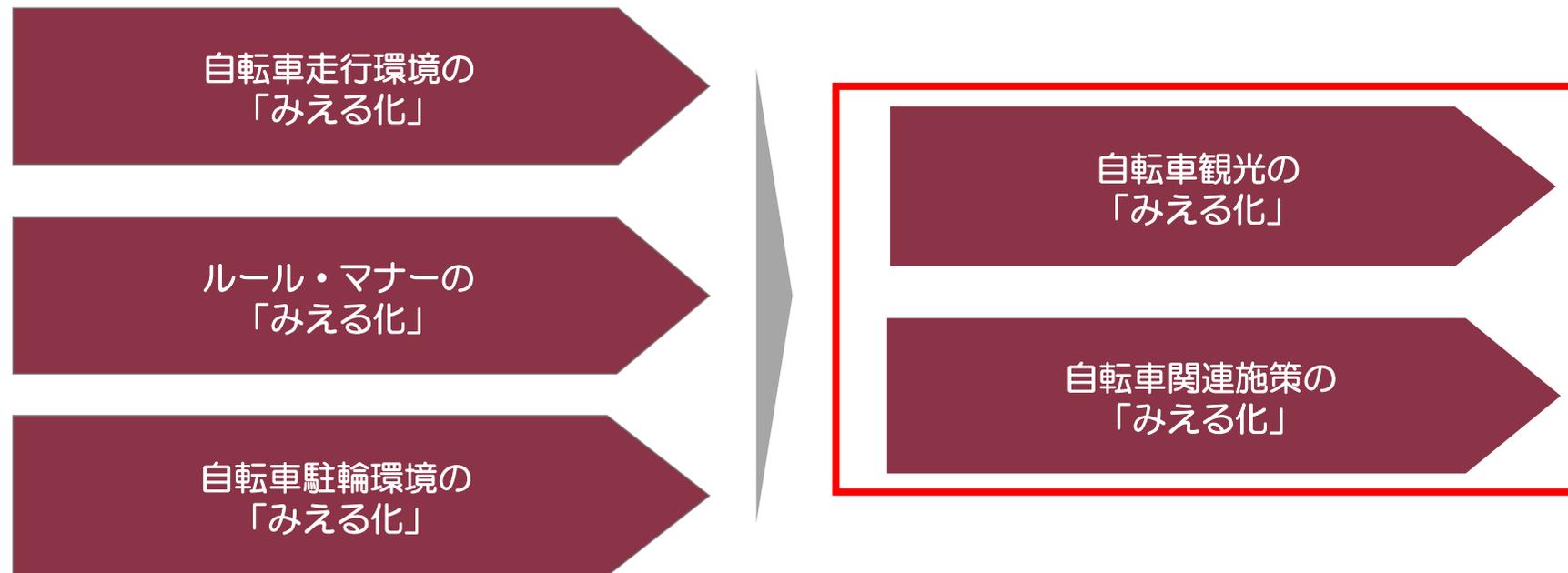
「いきいきポイント事業」との主な連携の概要

- ① 自転車利用や自転車安全教室受講等によるポイントの取得。
- ② 電動アシスト自転車をはじめとする自転車関連の応募者プレゼントの充実
- ③ 「いきいきアプリ」へのサイクリングコースの新設等



(6) 今後の検討事項

- これまで、3つの「みえる化」(走行環境, ルール・マナー, 駐輪環境)については、一定の進捗が図られてきた。
- 今後、残る2つの「みえる化」(自転車観光, 自転車関連施策)についても更なる取組を進めていきたい。



<参考 自転車活用推進計画(国)>

- シェアサイクルの普及促進
- サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現
- サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現
- 災害時における自転車の活用の推進

■ツーリズムでの活用



ロングライド

○自転車での長距離走行のイベントで、自力での完走を目指し、タイムを競うレースとは異なる。

上記以外にも、距離を短くし、まちなかを走る散走などがある。

○小学生以上を対象であるが、種目によっては、小学生4年生以上で保護者同伴が必要。制限時間あり

○種目は、嵐山東公園運動場を起点に、約133kmを走るロングコースから、1kmのファミリーランのコースと4つのコースがある。個人で走るものから、チームで走るものがあり、家族で楽しみながら、京都の様々な景色を楽しむことができる。

出典: KYOTOロングライド in South Around

■スポーツでの活用



ツアーオブジャパン

○毎年5月に開催されるUCI公認国際自転車ロードレース

○日本は、堺からはじまり、京都、富士山、東京など8つのステージからなる

出典: ツアーオブジャパン



全日本トライアル選手権大会

例)ロードレース

○一般公道で実施され、順位を競う。1時間未満のジュニアレースからプロによる6~7時間に及ぶクラシックレースまで幅広く開催されている。

○コースは、標高3,000mに至るような山道もあれば、田園地帯や海岸線を走るコースなど様々ある。

例)トライアル

○スピードやタイムを競うのではなく、岩や丸太、斜面等の自然地形や、人工の構造物で作られたコース(セクション)を走行し、いかに足を着いたり転倒せずに走行出来るかを競う。

上記以外にもトラック・マウンテンバイク・クロスカントリー・BMXなどがある。

また、地図をもとに時間内にチェックポイントを自転車で回り、得点を集めるサイクルロゲニングもある。

出典: 日本自転車競技連盟

健康面や環境面での活用



堺市(大阪府): 健康サイクリング

目的 健康増進

対象: サイクリング中級
以上の方

- 自転車博物館で実施しているイベントの一つ
- 体に少し負荷を掛けた有酸素運動を体験するツーリング
- 距離は、30km~40km

出典:堺市自転車博物館ホームページ



真庭市(岡山県): 自転車を活用した健康づくり教室

目的:
地域住民に健康づくりの推進するため、
自転車を活用したプログラムを提供

対象: 35歳以上の子育て世代
(フォロー体制にも注力)

- 2016年に第1期(6カ月)、2017年に第2期・第3期(各3カ月)で実施
- プログラムは1カ月に一度、参加者が集まって体調チェック、大学講師による健康教室、サイクリングを行い、理論と実践を兼ね備えている。

出典:岡山県真庭市健康福祉部健康推進課

災害時での活用

シェアサイクルを災害時に活用

○大阪北部地震

⇒ドコモ・バイクシェア、ハブチャリ、HELLO CYCLINGなどのシェアサイクル事業者が、被災者への支援措置として、無償利用を可能とした。

○平成30年7月豪雨

⇒広島市シェアサイクル「ぴーすくる」を避難所へ配置し、避難者の移動手段として無料開放。

自治体との協定

○品川区(ドコモ・バイクシェアと協定)

⇒災害時に区職員が避難所等へ移動を自転車で行うように区職員に限定して開放。